国　語　科

羽場邦子・竹森文美・谷　栄次・浜岡恵子・宇田昭史

１　研究の目的

今回の学習指導要領改訂により，小学校でも中学校でも「伝統的な言語文化」が重視され，小学校の国語科教科書には多くの古文や短歌・俳句，漢文などが教材として取り上げられている。しかし，古典教材における小学校５・６学年の学習内容と中学校の学習内容は，重なり合う部分が多く，その系統性が曖昧になってしまっている。さらに，「伝統的な言語文化」は，有名な古典作品だけでなく，地域に受け継がれている文化・昔話・民話など多種多様で，教材開発の研究も求められている。

これまでの古典の教材を扱う授業を省みたとき，いくつかの限られた有名な古典作品を教材として扱うことが多かった。古典作品には，生活の中で聞き慣れない言葉が含まれ，その意味も理解しにくいなどの理由から，学習に対する抵抗感が生まれやすく，学習が受け身的になってしまう傾向も見受けられた。また，教師の指導も音読・朗読・暗唱の練習や訓練に傾斜したり，教師からの説明が多くなったりして，「どうも不得意」「難しくて読む気になれない」といったつぶやきも聞こえてくる。

そこで，本研究では，小・中学校の９年間で児童・生徒の学びをどのようにつないでいくのかを明らかにし，「伝統的な言語文化」に主体的にかかわるような授業づくりを実現していくことを目的とした。義務教育段階では，様々な教材を通して段階的・継続的な取り組みの中で，「伝統的な言語文化」に親しむ態度が育成されていく。さらに，国語科の役割である「ことばの力」を身につけていくために，螺旋的・反復的な学習経験も必要となる。今の時代を生きる児童・生徒に多様な「伝統的な言語文化」にふれる機会を設け，その価値に気づき，実感できるような取り組みにしていきたい。

２　研究の計画　－３年次案－

１年次（平成 23 年度）　研究の方向性の明確化

○古典の授業における先行文献研究，教科書の古典教材把握

○研究の目的，Ⅲ期におけるめざす生徒像と学びのつながり，授業構想の作成

○各学年における俳句の授業実践，実践の成果と課題の明確化

○学びのつながりの吟味，２年次の研究計画の確認

２年次（平成 24 年度）　研究の深化　・・・本年度

○幅を広げての教材開発，その授業実践，実践における成果と課題の明確化

○Ⅲ期の生徒像と学びのつながりの吟味と修正，３年次の研究計画の確認

３年次（平成 25 年度）　研究のまとめ

○さらなる教材開発と授業実践，実践における成果と課題の明確化

○Ⅲ期の生徒像と学びのつながりの吟味と修正，次の研究の方向性の検討

３　昨年度の取り組み

研究１年次である昨年度は，俳句・俳諧（以下，俳句と略す）を共通の教材として授業のあり方を探ることにした。小・中が共通の教材にすることで，児童・生徒の発達段階の違いを浮き彫りにすることができる。俳句にした理由は，五・七・五というリズムが生活の中の様々な言語文化に浸透しており，その凝縮された言葉や表現の中に読みの深まりや広がりが生まれやすいからである。また，学年に関係なく，表現活動に結びつけることができ，親しみやすいと考えたからである。

昨年度の授業実践から以下のようなことが明らかになった。

○小学校の段階（年齢が下がるにつれて）では，具体的な生活経験や体験とかかわらせること，実物

や写真，絵本など視覚的にとらえさせることが，俳句の世界のイメージを補い，有効となる。

○俳句の創作や鑑賞文を書くなどの表現活動を結びつけることが，興味・関心を高める手立てとして有効となる。ただし，音の数え方や季語の問題など俳句に関する知識・技能面の指導は，学年に応じて丁寧にしていく必要がある。

○Ⅱ期における解釈の多様性からくる難しさは，一文字の違いによる意味の違い，微妙なニュアンスの違いや言葉そのもののもつ限界性に気づけたことの現れでもある。このことは，作者の言葉選びの意図や心情，作品の背景を読む利点にもなり得る。

○中学校の段階（学年が上がるにつれて）では，上記のような抽象的な思考を促す場を増やしていくことで，知的好奇心を刺激し，興味・関心を高める上で有効となる。

４　本年度の取り組み

(1)　めざす生徒像・児童像

◆Ⅲ期（中学校２～３年生）

関連する伝統的な言語文化にふれたり，作品に関わる歴史的背景をふまえた深い読みを実現したりすることによって，古典にふれる機会を自ら求めようとする生徒をめざす

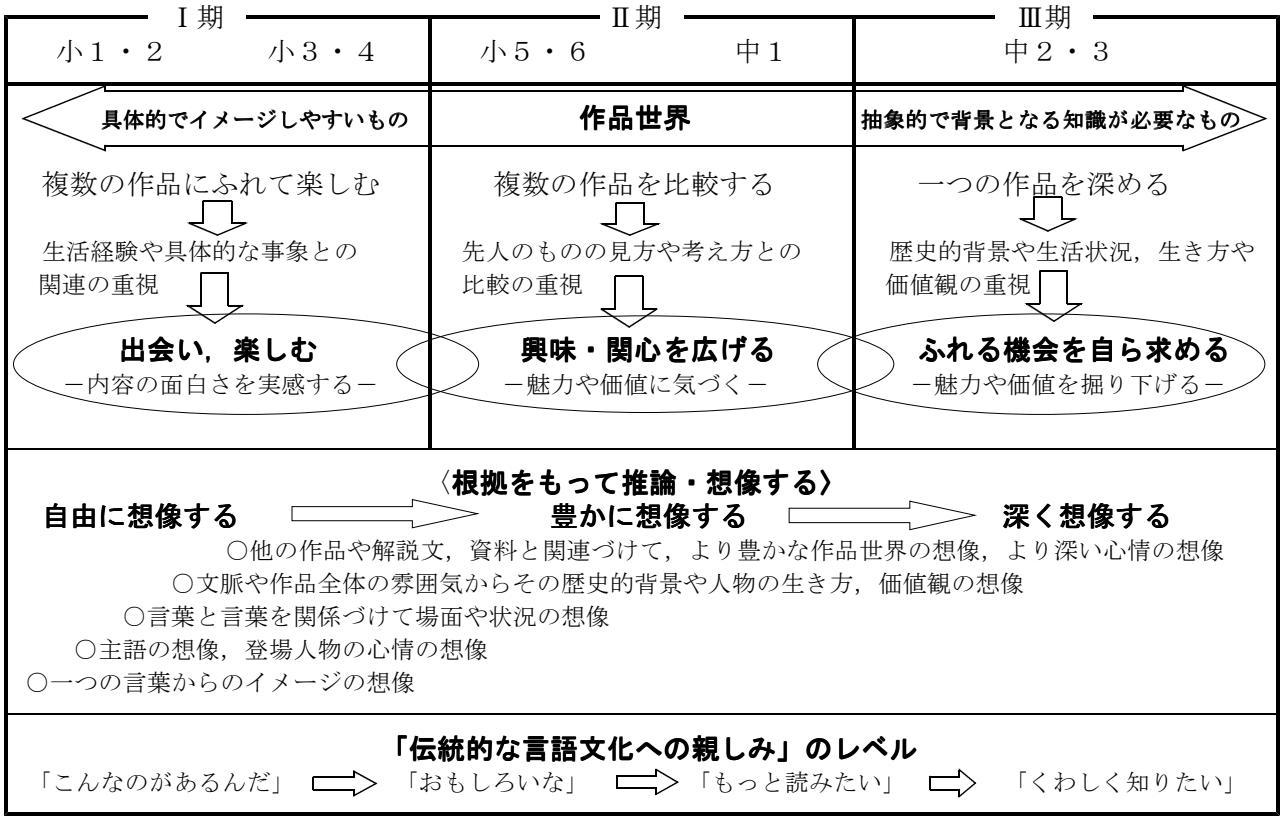
◆Ⅱ期（小学校５年生～中学校１年生）

伝統的な言語文化のもつ価値や先人のものの見方や考え方の面白さにふれた読みを実現することによって，古典に対する興味・関心をもって学ぼうとする生徒・児童をめざす

◆Ⅰ期（小学校１～４年生）

言葉のもつリズムやおもしろさ，奥深さを感じる読みを実現することによって，古典に出会い，楽しんで学ぼうとする児童をめざす

(2)　小学校・中学校９年間の学びのつながり



「伝統的な言語文化」から学ぶことは，今の時代を生きている我々に新鮮な驚きや発見を与え，様々な価値観を見直し，自分の有り様，生き方を考える機会にもなり得る。そうした学びの意義や意味が実感できたとき，児童・生徒は学ぶ楽しさを感じ，古典にふれる機会を自ら求めるようになる。

技能面においては，言葉の意味理解や古典特有のきまり（俳句の場合，季語や音数がそれにあたる）を知識として身につけるだけでなく，根拠をもって推論・想像する読みの力を重視したい。

芭蕉の「山路来て何やらゆかしすみれ草」の句を例に考えてみよう。「すみれ草」という花の色や大きさ，花びらの形や咲いている場所などが具体的にイメージできれば，その小さな花の美しさや可憐さ，和ませてくれる優しさを感じ，作者の思いを推論することは小学校の低・中学年でも可能となる。小学校の高学年や中学校ではどうだろうか。この句を詠んだ芭蕉の旅は，初めての本格的な旅であり，当時の旅が死をも覚悟しての旅立ちであったという歴史的な背景を踏まえると，苦しみや不安の続く旅の途中で，ふと目にしたすみれ草は，自然の恵みや生命の尊さの象徴とも読める。また，芭蕉の他の俳句と比較したり，奥の細道から芭蕉の人生観や生き方にふれたりすることにより，人知れず山の中でひっそりと咲く花の命に自らを重ねる儚さ（無常観）という読みも期待できる。

このように，言葉を手がかりに目に見えるものから目に見えない意味や情感への気づき，当時の価値観への気づきが実感できれば，自ら進んで「伝統的な言語文化」にかかわり，楽しみ，親しむ姿が見られるようになるだろう。

(3)　取り組みの重点

研究２年次である本年度は，「伝統的な言語文化」を幅広くとらえ，俳句に限らず様々な教材を扱うことにした。指導に当たっては，昨年度の取り組みを生かして，表現活動を重視すること，児童・生徒の現実の生活感や生き方とかかわらせることの２点を大切にする。

(4)　授業研究について　－各学年の授業研究の構想と検証方法－

◆Ⅰ期（小学校低学年）　単元名「昔話の語り手になろう－広島の昔話－」

【授業仮説】　昔話を児童自身が再話し語ることで，昔の人の思いや願いに気づき，昔話を楽しみそのおもしろさを実感できるだろう。

【教材】広島の昔話		
【表現活動】 ・１年…一人で語る ・２年…グループで音読劇（リーディングシアター）を行う ・はじめ・なか・おわりで再話	【生活・自分への引き寄せ】 ・「語り始め」「語り納め」「文末表現」の工夫 ・登場人物の行動や会話などを想像し書き直しや書き加え	⇨ 【めざす姿】 ・聞き手を意識し語る姿（１年） ・聞き手を意識しグループで呼吸を合わせて語る姿（２年）

【検証方法】○台本の記述や語りの様子から，場面の様子や登場人物の行動をつかみ想像を広げながら再話したり，語ったりできているかどうか検証する。

○学習前と学習後でアンケートを行い，学習への興味・関心の高まりを調べる。

◆Ⅰ期（小学校４学年）　単元名「日本のことば物語　－ことわざ・慣用句・故事成語－」

【授業仮説】　ことわざや慣用句，故事成語のことばの意味を推論しながら意味を理解し,それらの工夫に対して考えがもてるようになれば，自分の生活場面と結びつけた文章を作ることができるようになり，ことわざや慣用句，故事成語のおもしろさを実感するだろう。

【教材】ことわざ・慣用句・故事成語		
【表現活動】 ・由来や起源，慣用句を使ったのお話づくり	【生活・自分への引き寄せ】 ・自分の生活に当てはめて考えたお話の創作	⇨ 【めざす姿】 ・ことわざ，慣用句，故事成語と自分の生活を結びつけて楽しむ姿

【検証方法】○ことわざや慣用句，故事成語の興味関心の変化については，事前事後の児童の意識調査から見とる。

○古典的なことばを推論すること，ことばの工夫を見つけること，短文づくりについては，ノートや事後テストで評価する。

◆Ⅱ期（小学校高学年）　単元名「噺家になろう　－江戸の笑い話を落語に変えて－」

【授業仮説】　簡単な笑い話を落語の構成に書き直して，そのよさを自覚した上で，語る場を設ければ，落語に興味をもち，楽しむことができるだろう。

【教材】「日本のわらい話」（フォア文庫）から選んだ１６作品		
【表現活動】 ・落語 ・３部構成（枕，本題，落ち）での書き直し	【生活・自分への引き寄せ】 ・テーマと関連した「枕」の創作 ・「本題」の会話中心の書き加えと書き換え	⇨ 【めざす姿】 ・創作した簡単な落語を覚えて懸命に語る姿 ・落語に興味をもち，楽しむ姿

【検証方法】○事前事後アンケートの比較による興味・関心の変容を検証する。
○実際に落語を演じたことへのふりかえりの記述を分析する。

◆Ⅱ期（中学校１学年）　単元名「名句をつくろう　－二句一章に焦点化して－」

【授業仮説】　取り合わせの手法をゲーム化して題材を決定することで，二句一章の完成度の高い句を楽しく創作できるだろう。

【教材】　「俳句」		
【表現活動】 ・俳句 ・「取り合わせゲーム」による二句一章の発句	【生活・自分への引き寄せ】 ・身近な情景から材をとる写生句の創作 ・実際のコンテストへの応募	⇨ 【めざす姿】 ・より完成度の高い作品を目指して楽しみながら創作し，ある程度の完成度を確信して満足感に浸る姿

【検証方法】○ 事前・事後アンケートを比較分析し、興味・関心の変容を検証する。
○ 俳句作品とその解説文の完成度および内容を分析し、指導方法の有効性を検証する。

◆Ⅲ期（中学校２学年）　単元名「百人一首　－歌に込めた思いに迫る－」

【授業仮説】　作者になりきって日記を書くことで，和歌の意味だけではなく，作者の思いや和歌の背景に気づき，理解を深めることができるだろう。

【教材】　「百人一首」		
【表現活動】 ・「百人一首」から，和歌を一首選び，その作者となって，その和歌を最後に詠む形式の日記を創作する。	【生活・自分への引き寄せ】 ・創作するために必要な知識を得るための調べ学習 ・想像力をふくらませて，和歌の時代と現代とを交差させる	⇨ 【めざす姿】 ・和歌の言葉に込められた作者の思いを理解し，感動する姿

【検証方法】○授業実践後に書いた生徒作品（鑑賞文）を，ルーブリックにより評価する。
○古典学習に対する意識調査を，授業実践前後に行い，結果を比較検証する。

【参考文献】

文部科学省，『小学校学習指導要領解説　国語編』（平成 20 年 6 月）
文部科学省，『中学校学習指導要領解説　国語編』（平成 20 年 7 月）
文化審議会答申，『これからの時代に求められる国語力について』，2004
全国大学国語教育学会編，『国語科教育学研究の成果と展望』，明治図書，2002
田近洵一・井上尚美編，『新訂　国語教育指導用語辞典』，教育出版，1984
難波博孝・東広島市立原小学校，『伝統的な言語文化の授業づくり』，明治図書，2009
日本言語技術教育学会，『言語技術教育１９　「伝統的な言語文化」を深める授業力とは』，明治図書，2010